

稲わら利用による飼料コスト削減

【平成 28 年 11 月 29 日掲載】

神石高原町の稲刈りが終了した田では、10月上旬から畜産農家が「稲わら立て」と収集を行っています。

「稲わら立て」は、わらを乾燥させるために必要な作業で、すべて手作業のため、畜産農家にとって一年を通して一番忙しい時期となります。集めた稲わらは牛の粗飼料として利用され、飼育には欠かすことのできない飼料です。

(合)向牧場(代表社員 向隆司(むかいりゅうじ)、和牛繁殖肥育一貫経営(繁殖牛約74頭、肥育牛約130頭))では毎年20~25haの面積で「稲わら立て」を行っており、乾燥後ロールベラーで収集しています。向さんは「稲わら立てや収集は体力的に大変だが、飼料のコスト削減には欠かせない作業です。」とされていました。

東部農業技術指導所では、畜産農家の自給飼料増産や稲わら利用等による飼料コスト削減など耕畜連携を支援しています。



【稲わら立ての風景】



【稲わらをロールにする作業の様子】

